

コーパスを使った日本語教授法の開発に向けて

—外国人日本語教師の文法性判断のために—

杉村 泰

キーワード コーパス、文法性判断、言葉のゆれ、「～中」、「～しそうにない」

1. はじめに

この数年、筆者は名古屋外国語大学で中国人留学生を対象に日本語文法を教えている。学生たちは上海外国語大学、北京外国語大学、天津外国語学院、大連外国語学院、西安外国語学院から来た短期交換留学生（大学院生。留学期間一年）で、ほとんどの学生が将来、母国で日本語教師になることを目指している。筆者はこのコースで論文指導と日本語教師としての日本語文法教授法の授業を担当している。

数年前にこの授業を始めたころは、学生にテーマを決めて発表させる形式をとっていた。しかし学生たちからは、今まであまり発表をした経験がない、テーマが決められない、先生から何か教えてほしいなどの意見が出て、どうもうまくいかなかった。学生たちはこちらの与えたテーマにそって先行研究を見つけてまとめるのは得意であるが、先行研究を批判的に読むことや、異なる意見の先行研究を整理してまとめ直すこと、自分なりの新しい説明を加えることには抵抗を示すようであった。特に教科書や辞書、名のある先生の書いた論文は無批判に受け入れる傾向のあることを強く感じた。（もちろんそうでない学生もいる。）

そこで昨年度と今年度は、学生たちに自分でテーマを決めて発表させる前に、まず先にこちらからテーマを与える形に変えた。このようにしたところ、はじめはこちらの指示通りに動くだけであった学生が、次第に自分たちで分析方法を考えるようになり、お互いに議論し合うようになっていった。

このコースでは、野田尚史著『はじめての人の日本語文法』（くろしお出版）と森山卓郎著『ここからはじまる日本語文法』（ひつじ書房）を教科書として使っている。名前は初心者向けであるが、基礎から超上級まで日本語教師として身につけておきたい知識や分析方法が詰まった本である。この本にある文法の練

習問題を解きながら、母国で日本語を教えるようになった際に、学生にどう文法の説明をすればよいのかを一緒に考えている。

昨年度と今年度は日本語の「ゆれ」をテーマに討論している。このコースの学生たちは中国の日本語専攻の大学院で学ぶ超上級日本語学習者であるが、それでも日本語母語話者と違って日本語の直観が働かないことがしばしばある。将来日本語教師として教壇に立ったとき、学生の質問にうまく答えられない不安はある。その場合、辞書や文法書を参考にしたり、周りの日本人に聞くことも可能であるが、人によって文法性判断に違いのあることは多々ある。この授業ではコーパスを使うことにより、どれくらい文法性判断の助けになるのか、その可能性について追究した。

2. コーパスの利点と注意点

ある表現の文法性を判断するには、(a) 分析者の内省に頼る、(b) 辞書や文法書で調べる、(c) 他人に聞いたりアンケートをする、(d) コーパスを使うといった方法が考えられる。これらはそれぞれ次のような特徴を持っている。

(a) 内省

(利点) 言語環境や文脈による微妙な意味の違いや文法性の差が判断できる。

(注意点) 個人の頭では判断に偏りが生じたり、必要な用法を見逃すおそれがある。母語話者でないと判断が難しい。

(b) 辞書・文法書

(利点) 専門家による意味記述、文法説明、文法性判断が得られる。

(注意点) 編著者の語感に左右される場合があり必ずしも絶対ではない。

(c) 他人に聞く・アンケート

(利点) 個人の判断に偏らず広く意見が求められる。質問が適宜加工できる。

(注意点) 文脈や他のアンケート項目の影響を受けるおそれがあり、ひどい時には誘導尋問の危険性もある。

(d) コーパス

(利点) 大量の言語資料を使うことにより個人差を捨象できる。基本

的に自然に産出された表現が得られる。アンケートと違い、他の項目の影響や誘導尋問を避けることができる。

(注意点) 必ずしも実例にある表現が正しく、実例にない表現や少数の表現がおかしいわけではない。非文を得るのが難しい。結局は分析者の判断が必要である。

言うまでもないことであるが、最終的に文法性判断をするのは分析者自身であって、コーパスではない。そのことを理解した上で、文法書やアンケートの不備を補うためにも、文法性判断の「道具」としてコーパスを利用することが可能である。先述の学生たちはコーパスが役に立つことは知っていたが、コーパスという言葉だけが先行し、出てきたデータを処理するための訓練はあまり受けてこなかった。

そこで筆者の授業では、インターネットのホームページをコーパスとして、実際に日本人がどのような日本語の使い方をしているのかを調査した。インターネットのホームページをコーパスとした理由は、Google、goo、Yahoo! JAPANなどの検索エンジンで手軽に検索できること、現在の脆弱な日本語コーパスの構築状況から見ると圧倒的に大規模の用例を扱えることによる。よく言われるように、ホームページの日本語は必ずしも文法的に規範的なものであるとは限らない。そのことについても承知した上で、そのあたりを見極める勘も養いながら、日本語のゆれについて考えていった。以下、「～中(ちゅう)」と「～中(じゅう)」、「～しそうにない」と「～しなさそうだ」を例に、その実践例を示す。

3. 「～中(ちゅう)」と「～中(じゅう)」

接尾辞の「～中」には「ちゅう」と「じゅう」の二つの読み方がある。はじめに学生たちに「ちゅう」と読む例と「じゅう」と読む例を聞いたところ、次のような例が挙げられた。(ここでは見やすいように並べ替えてある。)

- (1) ちゅう：勉強中、食事中、睡眠中、電話中、工事中、留守中、冷凍中、解凍中、修行中、恋愛中、妊娠中、会議中、思考中、生存中
水中、海中、大気中、地中、雪中、雨中
忌中、熱中、夢中、心中、不幸中(の幸い)、百人中(の三人)
考え中、話し中、申し込み中、借り入れ中

午前中、今月中、夏休み中、日中

- (2) じゅう：世界中、日本中、部屋中、町中、学校中、からだ中、そこら中年中、一日中、夜中中、今日中、今年中、春中、夏中、秋中、冬中

次に両者の使い分けについて聞いたところ、「ちゅう」は「ある期間や空間のなか、ある行為の最中」を表し、「じゅう」は「ある期間や空間のすべて」を表すという答えが返ってきた。これは学生たちが大学一年生のときに基礎日本語で習った内容であり、両者の使い分けをよく理解していることがわかる。¹⁾

しかし、「ちゅう」と「じゅう」の使い分けはそれほど単純なわけではない。次に示すようなことは学生たちもこれまであまり考えたことがないらしく、日本語の直観を働かせるのに苦労した。²⁾

- 1) 「勉強中」、「恋愛中」、「生存中」は言えるが、「故障中」、「結婚中」、「離婚中」、「死亡中」は言えるか。
- 2) 「思考中」に対して「考え中」は両方言えるが、「食事中」に対して「食べる中」は言えるか。
- 3) 「午前中」は言えるが、「正午中」、「午後中」は言えるか。
- 4) 「じゅう」は普通その期間全体の意味を表すが、「今日中」はどうか。
- 5) 「昨日中」、「今日中」、「明日中」、「去年中」、「今年中」、「来年中」はそれぞれどう読むか。

1) について、中国人学生たちは「故障中」は聞いたことがあるが、「結婚中」、「離婚中」、「死亡中」はよく分からないという答えが大半であった。分からないものは考えても分からないので、³⁾ 教室の外にいる日本人学生に聞きに行かせた。その結果、多くの日本人が「故障中」は普通に使えるが、「結婚中」、「離婚中」、「死亡中」はおかしな日本語であると考えていることが分かった。ある日本人学生は「結婚中」と言うと、「結婚式を挙げている最中」の意味になると答えたそうである。

次にインタビューの結果をもとに、どのような基準で「～中」が使えるのかを考えた。中国人学生の中には国で「故障中」は不自然な日本語であると習った人もいた。「～中」は「勉強する」のような継続的な動作動詞に付くのが基本であり、「故障する」のように瞬間的な動詞、状態的な動詞には付かないというのである。そこでインターネットの Yahoo! JAPAN で「故障中」を検索したところ56,007件出現した。⁴⁾ これだけの数が出現すれば、必ずしも「故障中」は

間違った日本語であるとは言えなくなる。実は「～中」は単に何かの最中を表すのみでなく、「勉強する→休憩する」、「食事する→風呂に入る」のように、次に来る行為や状態から区別して範囲を区切る意味を担っている。このように「漢語動詞＋中」には何らかの行為の最中を表す用法のほかに、何らかの状態にあることを表す用法も定着しつつある。従って、「故障する→直る」という事態の流れを意識して、「今は故障した状態にある」ということを「故障中」で表せる人も多く存在するのだと考えられる。次の「安心中」、「非難中」も現在は不自然な感じがするが、今後使われるようになる可能性がある。

- (3) 白坂の容態には、特に、異常が無い様子でひとまず安心中。

(<http://www.bekkoame.ne.jp/~sugamo/news99.html>)

- (4) モーニングショーが女性官僚上がり外相を非難中。非難してもはじまらぬと俺は思う。 (<http://www.asahi-net.or.jp/~RY9M-YMMT/yen.htm>)

「結婚中」、「離婚中」はインタビューされた日本人学生たちも不自然であると答えており、筆者も不自然な感じがする。しかし、「結婚→離婚→結婚」という事態の流れを意識した場面では、「結婚中」も「離婚中」も使いやすくなる。今後「結婚→離婚→結婚」という生活が普通の世の中になれば、「結婚中」や「離婚中」は自然な日本語として定着する可能性がある。

- (5) 国民年金の受給額は、結婚前・結婚中・離婚後の加入期間を合算して計算します。 (<http://www1.odn.ne.jp/tops/050204.htm>)

- (6) 今の夫と離婚をしていたことがあるが、前の結婚の時や、離婚中の年金はどうなる？ (<http://www.rosetta.jp/nenkin/back.html>)

同様に「生存中」が自然で「死亡中」が不自然なもの、「生存」の後に「死亡」はあるが、「死亡」の後には何もないからである。しかし、今後医学の発展により死者が生き返るような時代が来れば、「死亡中」も自然な日本語になる可能性がある。

- (7) 復活アイテム、聖職者による蘇生でもaliveになります。死亡中は多くの事が制限されます。 (<http://takory.hp.infoseek.co.jp/sos2kmanual.htm>)

このような「～中」は、日本語母語話者の中でも使い方に揺れが見られるが、次に来る行為や状態が想定できる場合には、継続的な動作動詞のみでなく、瞬

間動詞や状態動詞にも使われるようになってきているようである。

次に2)についてであるが、「考え中」、「話し中」は言えるのに、「食べ中」、「聞き中」はなぜか言えない。両者を比べると、「考え」、「話し」が動詞の連用形のみでなく名詞としても機能するのに対し、「食べ」、「聞き」は動詞の連用形としてしか機能しないことに気付く。このことから「～中」は名詞機能を持つ動詞に付くと考えられる。考えてみれば、先の「勉強中」、「生存中」の「勉強」や「生存」も、サ変動詞であるとともに名詞としても機能している。中国人学生たちは、日本人に確かめるまで「食べ中」も言えるのではないかと言っていたので、この点をしっかりと教えておく必要があると思われる。⁵⁾

3)で「正午中」が言えないのは、「正午」は瞬間的に終わり、時間的な幅を持たず、その期間中にといい言いができないためである。一方、「午前中」が言えるのに「午後中」が言えない理由は、「午前」は正午を境に「午後」と交代するが、「午後」はその終点がはっきりしない上に、次に来る期間も想定しにくいいためである。実際、「午前中にレポートを提出しなさい」と言われれば正午までに提出すればよいが、「午後中にレポートを提出しなさい」と言われても何時までに提出すればいいのかよく分からない。確かにカレンダーの上では深夜零時を境に前日の「午後」から翌日の「午前」へと移るが、日常生活の感覚では「午前→午後」という変化は意識しても、「午後→午前」という変化は意識されにくい。ただし、「午後中」という表現は、次のような実例も結構出てくるので、「午後中」という表現を聞いたなら、何時までのことを言っているのか確認するよう教えておく必要がある。⁶⁾

- (8) 『花キューピットシステム』により、お近くの加盟店から翌日の午後中にお届けいたします。(http://www.gpd.co.jp/otodokesaki_sisutemu_sigai.html)

次に4)の「今日中」について考える。「じゅう」は普通その期間全体の意味を表すが、「今日中」は常に「じゅう」と読んで、ある期間の一点もその全体も指す。逆に「午前中(ごぜんちゅう)」は常に「ちゅう」と読んで、ある期間の一点もその全体も指す。期間内の一点を表す場合は「～中に」のように「に」を付け、期間内全体を表す場合は「～中」のように「に」を付けないことに注意したい。

- (9) a. 今日中に一度取引先に電話を入れる。(期間の一点)
 b. 今日中ずっと取引先に電話を入れていた。(期間全体)
 (10) a. 午前中に一度取引先に電話を入れる。(期間の一点)

b. 午前中ずっと取引先に電話を入れていた。(期間全体)

最後に5)の「昨日中」、「今日中」、「明日中」、「去年中」、「今年中」、「来年中」について日本人に聞いたところ、過去について述べる「昨日中」、「去年中」は「ちゅう」も「じゅう」も使わず、普通は「昨日のうちに」、「去年のうちに」、「昨日はずっと」、「去年はずっと」と言うとの回答を得た。これは中国人学生たちにとって初耳のようで、面白い発見をしたと言っていた。しかし、Yahoo! JAPANで検索すると、「昨日中に」は5,032件、「去年中に」は447件出現した(「昨日中」、「去年中」は「昨日、中々」、「去年中2で」のようなゴミが多数出てくるので調べられなかった)。このことから、「昨日中に」や「去年中に」は日本人にとって不自然な表現でありながらも、全く使えない表現ではないことが分かる。ただし、これらの「中」の読み方を日本人に聞いても、普段あまり使わないため「ちゅう」なのか「じゅう」なのかよく分からないということであった。また、「今日中」、「今年中」は日本人全員が「じゅう」と読み、「明日中」、「来年中」は同じ日本人でも「ちゅう」と「じゅう」の間で揺れており、同じ個人でも一定していない人のいることが分かった。本コースの中国人学生のように超上級の日本語学習者でも、このようなことはあまり知らないようであった。

以上のように、一見自明のように見える「～中(ちゅう)」と「～中(じゅう)」の使い分けも、日本人へのインタビューやコーパスによる調査を通して、教科書にはあまり書いてない使い方の特徴のあることが分かった。これは学生たちにとって新発見だったようである。

4. 「～しそうにない」と「～しなさそうだ」

次に野田(1991)の次の問題について考える。

問題16 次の文がどうして間違いなのかを、品詞という点から説明してください。

- (1) *雨が降らなさそうです。
(参考 お金がなさそうです)

(野田1991: 30)

問題を見て学生たちはすぐに「雨が降りそうに(も)ない」が正しいと答え

た。これは学生たちが学部一年生のときに習った内容で、そこでは「お金が無い」のような形容詞の「無い」は「なさそう」と言い、助動詞の「ない」は「～しそうにない」が文法的に正しいと教わったそうである。

そこで今回も日本人に聞きに行かせることにした。その際に中国人学生たちには、日本人にはまず「雨が降りそうだ」を否定文にしたらどうなるか聞き、答が返ってきたら、他に言い方はないか聞くように指示した。一部の学生には「彼はケーキを食べそうだ」の否定文を聞きに行かせた。

日本人に聞きに言った学生は、面白いことが分かったと言って帰ってきた。それによると、数人の日本人に「雨が降りそうだ」の否定文を聞いたところ、全員「雨が降らなさそうだ」を先に答え、次に「雨が降りそうに（も）ない」も使うと答えたということであった。「彼はケーキを食べそうだ」について聞きに行った学生も、日本人はまず「彼はケーキを食べなさそうだ」と答え、次に「彼はケーキを食べそうにない」とも言うことと答えたということであった。学生たちは国で習った教科書の記述とは違うことに興味を覚えたようであった。

これについては筆者も意外で、当初日本人は「～しそうにない」と「～しなさそうだ」を半々ぐらいに答えるのではないかと予想していた。⁷⁾そこでインターネットの Google で「降りそうにない／降りそうもない」と「降らなさそう」を検索したところ（この形のみ検索）、前者は1,327件、後者は843件出現した。⁸⁾出現した例を見ても「降らなさそう」はけっして不自然な表現とは感じられない。次のような場合は、むしろ「降りそうにない」と言った方が不自然である。

(11) 雨が降りそうな降らなさそうな、そんな怪しげな天気になって来ました。 (<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley-PaloAlto/4146/9904.htm>)

(12) 明日は天気が心配でしたが、何とか雨は降らなさそうです。
(<http://c44.cside.com/c-news040502.html>)

Googleの検索によると、「降りそうな(,)降らなさそうな」は48件出現したが、「降りそうな(,)降りそう {に/も} なさそうな」は0件であった。「{何/なん} とか雨 {は/が} 降らなさそう」は22件出現したが、「{何/なん} とか雨 {は/が} 降りそう {に/も} ない」は1件しか出現しなかった。

一方、次のように前に「まだ」という副詞が付くと、「～しそうにない」の方が多く使われるようである。Googleの検索では、「まだ降りそう {に/も} ない」は56件出現したのに対し、「まだ降らなさそう」は3件しか出現しなかった。

- (13) 大雨という予想だが、まだ降りそうにない。

(http://www.eonet.ne.jp/~ji3fwo/m_diary2001_6.html)

両者の意味の違いは、「～しそうにない」は「～しそう+ない」、「～しなさそうだ」は「～しない+そうだ」となっていることから説明できそうである。すなわち、「雨が降りそうにない」は「雨が降りそうだ」という予想を打ち消す表現、「雨が降らなさそうだ」は「雨が降らない」という様態の現れを表す表現であると説明できる。⁹⁾ただし、両者の違いは微妙であり、インターネットの実例を見ても、上の(11)～(13)のような例を除いて、それほど違いなく使われているようである。いずれにせよ、「～しなさそうだ」は日本語の中でかなり定着した表現であると言えそうである。少なくとも日本語の授業で間違った日本語であると教えたり、試験で誤答とすることはできないと思われる。

5. 終わりに

授業ではこのほかに、「～てならない」と「～てたまらない」の使い分けや、「財布が忘れてある」のような意志性のないテアル構文の位置づけなど、これまでの教科書や文法書にはほとんど書かれていなかった文法現象について取り上げた。¹⁰⁾また、「とっぷり」、「たじたじ」、「ぬけぬけ」など意味の説明が難しい擬態語についても、多数の例文を見ることにより自ずと使い方が分かってくることが理解できたようである。学生たちは自ら実例を調べることにより、各表現の用法を実感として知ることができたようである。また、文法性判断のゆれに対しても、ゆれの中にある規則性に注意を払うようになり、慎重に文法性判断を行うようになったようである。¹¹⁾

それでも、時々辞書や先行研究の記述を鵜呑みにするような発言も出てくる。これは日本語を外国語とする学生たちにとって仕方がないことかもしれない。しかし、辞書等の記述は尊重しながらも、日本語の実態に目を向けることは必要である。今後コーパスの整備が進んでいけば、日本語の授業でコーパスを活用することが期待できる。本稿では外国人日本語教師が文法性判断に迷った場合に、コーパスによってその可否を判定する方法の可能性について追究し、その実践例を示した。

注

- 1) 森田 (1989) にも「ちゅう」と発音する場合は「“その物や範囲の中において”の意を表す (p.705)」、「じゅう」と発音する場合は「“その範囲の中すべて”の意を表す (p.706)」との記述がある。
- 2) 「～中」についてはインターネットのホームページ「日本語教師塾」に面白い議論が掲載されている。以下のURLを参照。
(<http://www.geocities.jp/yassan0518/jukugoroku/jukugoroku22.html>)
- 3) 他の学生を意識してか、ときどき分からないのを認めたがらない学生がいるので、分からなければ分からないと認める態度を最初につけさせたかったのである。
- 4) 以下、出現数は全て2004年10月10～20日のもの。
- 5) なお、ホームページからはわずかながら「海老グラタン食べ中」、「お弁当を食べ中」、「CDを聞き中」、「リクエスト聞き中」という用例も出てくる。したがって、中にはこのような言い方をする人もいることが分かる（「盗み聞き中」は「盗み聞き」が名詞なので可）。ところで、「思い」、「読み」、「作り」は名詞にもなるが、「思い中」、「読み中」、「作り中」は不自然である（「片思い中」、「立ち読み中」、「曲作り中」は「片思い」、「立ち読み」、「曲作り」が名詞なので可）。この点については今後検討する必要がある。
- 6) 森田 (1989) は「「午後中に」と言えないのは、午後の終わりは「きょう」の終わりに重なるから「きょう中」で代表されるわけである (p.707)」と説明している。しかし、午前ではなく午後の間にと言いたい場合に「今日中」とは言えないので、この説明は妥当ではない。
- 7) 野田 (1991) は「私が大ざっぱに調べたところでも、「降らなさそうです」と言えるという人とおかしいという人と半々ぐらいです (p.30)」と述べている。また、森田 (1989) は「動詞はb型の「来そうもない」「雨は当分降りそうもない」をよく用い、「降らなさそうだ」のa型はあまり使用されない (p.595)」と述べている。
- 8) 同様に「食べそうにない／食べそうもない」と「食べなさそう」を Google で検索したところ、前者は179件、後者は617件と、後者の方が多く出現した。この数字を見ても、「～しなさそうだ」は決して誤った日本語であるとは言えないことが分かる。
- 9) 菊地 (2000) は、「雨が降りそうにない」は「〈次の絵〉として「降る」図はまず思い描けない(そういう状態である) (p.22)」、「雨が降らなさそうだ」

は「〈次の絵〉として「降らない」という図が思い描ける (p.23)」と説明している。また、野田 (2003) はアンケートにより、「動詞の場合、近畿の若年層では、「そうにない」が選択されやすいが、東北・関東・九州の若年層では、「な (さ) そうだ」が選択されやすい (p.144)」、「動詞で、予想を表す場合には、様態的な場合に比べると、「そうにない」が選択されやすい (p.144)」という傾向のあることを指摘している。

- 10) 「～てならない」と「～てたまらない」については杉村 (2002 a)、意志性のないテアル構文については杉村 (2002 b) を参照。
- 11) 実際の授業ではインターネットのホームページだけでなく、日本語コロケーション検索システム「茶漉」(一般公開版) もコーパスとして使用した。「茶漉」(一般公開版) は次のURLにある。

(<http://prairie.lang.nagoya-u.ac.jp/chakoshipub.html>)

参考文献

- 菊地康人 (2000) 「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味 —あわせて、その否定各形の意味の差について—」『日本語教育』107、日本語教育学会、pp.16-25
- 杉村 泰 (2002 a) 「コーパス調査による文法性判断の有効性 —「～てならない」を例にして—」『日本語教育』114号、日本語教育学会、pp.60-69
- (2002 b) 「意志性のないテアル構文について」『名古屋大学言語文化論集』第24巻第1号、名大言語文化部・国際言語文化研究科、pp.159-174
- 野田春美 (2003) 「様態の「そうだ」の否定形の選択傾向」『日本語文法』3-2、日本語文法学会 (くろしお出版)、pp.131-145
- 野田尚史 (1991) 『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 森山卓郎 (2000) 『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房

